

動開始できるよう、準備を怠らずに備えようと思います。

そして、この通信をご覧くださっている方々はえんが様々なことを行っているのをご存知でしょうが、一歩地域に出ると案外知られていないのです。「高齢になっても(認知症になっても)、障がいがあっても、この街で暮らし続けるために」を掲げて、一つひとつ多くの方の力を借りながら、この地域で暮らし続けるためにひつような介護サービスなどを作ってきました。何を目指して活動してきたか、しっかり伝えていくこともまた今年度の目標です。まずは近々にボランティアから30年間の活動を振り返り、これからをみんなで考えた小さな冊子が完成予定です。

コロナ禍が収束し無事にこの年度の計画を実行できることを願うばかりです。

(代表理事/小島美里)



## ～ えん総会、初参加 ～

イラスト/田島薫

「えん」の仲間に入れていただき丸1年。初めての総会。出席する前からなんだかワクワクしていました。まず「総会議案書」にビックリ！気持ちはまだ新人、しかもパート職員の私が、事業報告、事業計画作成の一部に加えて頂いたのですから驚きです。

そして、総会資料に目を通すと、えん全体の移り変わる春夏秋冬を体験できる様な1年間の出来事が記録されていました。更に、コロナ禍で誰もが不安を抱えている中、「今できる事をやる!」、大切な人を守る為に実行、実践した事や情報を発信していた事などが記録されていたのです。

私、決して会議が好きなわけでは無いのですが、ここままで、どんな総会が開かれるのか見てみたい、との興味で溢れていました。

いよいよその日、いつもと違う装いの知った顔の皆さん。参加者49名。

小島代表からは、コロナ禍で対策・経営に厳しい環境下での1年だったことが伝わってきました。でも、えんの事業所内だけでなく、えんを取り巻く人々との交流があること、それも誰もが大変な時期に力強い応援があったエピソードに心が和みました。「えん」は支えるだけでなく支えられてる、お互い様の関係が築かれていることを感じたのです。

また、各担当の方からも高齢者、障がい者、地域の方々を支えるプロとして、事業計画の提案では決意表明とも取れる発言に、優しさと責任感を感じることができました。小島代表はじめスタッフの皆が地域に意識があること、そして「そこに暮らす人のために」の思いがあることが伝わって来るのです。手間暇掛けた「えん」のスタッフ全員+ボランティアの皆様で作りに上げている総会、96ページにも及ぶ総会資料以上に厚い、熱い思いは変わらず持続される事が、「えん」ならではの総会と実感しました。

これからも色々な事に興味を持ちながら、地域で暮らす一人として、自然豊かな「えん」の庭で2年目を迎えました。

(ケアプランえん相談支援/菊池とみえ)